

今年は梅雨明けが例年より2週間も早かった所為か、いつもより夏が長く感じられ、8月に入ったばかりというのに盆前に疲れが出てしまいそうです。

7月末に、たまたま北海道に講演で出掛けましたが、福岡(北緯33°)では午前から気温が35°Cを超えていたのに、札幌(北緯43°)では日中でも低湿度で最高気温も23°Cと大変涼しく、冷房は殆ど不要でした。講演前に時間が空いたので、柄にもなく先祖の墓参りをしてきました。と言っても無謀な話で、唯一の頼りは既に遠出の難しくなった老母が書いてくれた「霊苑入り口からお墓までの手書き墓地内地図」1枚のみ。中学3年以来、自分一人で訪れるのは初めてで、「霊苑の名前は既に変わってしまって分からない、確か近くに駅があったかも、豊平川を渡った記憶があるような」といった極めてaboutな母の説明に、多少苛立ちを覚え乍らも無事一発でお墓にたどり着き、永らく不義理していた父方の祖父母と伯父たちの眠る墓前に合掌お参りすることができました。

実は、母の手書きしてくれた霊園敷地内の狭道や区画の状況を、パソコン上Google Earthという空から見た札幌市内の衛星写真を頼りに照合し、半分賭けのような気持ちで遂に探し当て、何とか先祖の墓石前までタクシーで辿り着いたのでした(これにはチョット感動!)。数年前同様に、幼少時米国での友人の住所をご主人の姓からPeople Searchで調べ当て、恐る恐る手紙を出したところ本人からすぐに返事を戴いたので、大学入学以来なんと30数年振りに懐かしく文通を再開し、おまけに医療相談にのる羽目に陥っております。今や拙宅(経緯度は勿論、屋根の色まで分かります)や、極少ヒントで先祖の墓、はたまた幼少時のガールフレンドの大邸宅の位置まで探し当てることが出来る時代なのです。NASA宇宙計画やナノテクノロジーなど最新科学の進歩には目を見張るものがありますが、一方で使い方を間違えると実に恐ろしい世の中になりました。

当病院も電子カルテが定着し、事務系ばかりでなく医師/看護師ほか大勢の職員が、毎早朝からPC画面に向かって入力し、病棟・外来などに出向いています。私など全て手書きの時代に育ちましたので、怖いオーベンからの指示受けや書きかけのカルテ記事には付箋を貼り付けたり、色鉛筆を駆使し患者さんの理学所見や画像所見をスケッチしたり、週一回の総回診記事には朱筆で大袈裟に色付けしてみたり、面倒でしたが処方箋も手書きののち薬局に持参・手渡ししていました。便利さが却って不便さやミスを起こすことも少なくない昨今ですが、暑さで注意散漫にならないよう、またコンピュータに逆支配されないよう、常に動物的勘を鋭く気配って患者さん第一義でやって行きたいものです。